

都心から新幹線で45分の街 (3)

熱海駅（東海道新幹線）
熱海市（静岡県）

リニア新幹線が開通すると、飯田は東京から45分の街になる…。
都心から45分の街とはどんなものだろうか。今回はシリーズ最終回として、熱海市を訪れた。

熱海駅に向かったのは金曜日の午後、東京駅13時56分発こだま661号。
車内は行楽客とビジネス客が半々という状況だった。50分後に到着した
熱海駅、降車客は8割が行楽客、2割がビジネスその他といったところ。
週末のうきうき感も感じられる熱海駅となった。



JR熱海駅
右のビルが木造駅舎の方向へ伸びてくる

1. 他の新幹線駅に比べ特色ある駅前風景

熱海駅は新幹線の乗降する駅ビルと大正14年に建てたという木造の在
来線駅が隣り合っている。駅を出ると目立つのは路線バス、タクシーではな
くホテル、旅館の名前が側面に書かれたバス、マイクロバスであった。これ
を過ぎるとアーケードのついた駅周辺温泉旅館等へ抜ける通路を兼ねた商店
街となる。「仲見世」の看板があり、東京浅草の仲見世に似ている土産物な
どを扱う店が並んでいる。



温泉旅館などの送迎バスが並ぶが…

これまで熱海へは数回訪れたことはあるが、熱海の商店街をはじめ街並み
には良い印象は持てなかった。シャッターが下りた元気が感じられない商店
などが目に付いていたからである。これまでは貸切バスや自家用車など車で
熱海入りしていたのであるが、今回鉄道駅に降り立ってみた熱海は「なか
なか良いじゃないか」という感じを抱かせた。駅前に立つといかにも温泉地へ
降り立った雰囲気があり、それに来訪客に対応する商店街が隣接している。



商店街「仲見世」へ誘導される

多くの新幹線駅は、綺麗で整備が行き届いているもののどこか無機質とい
うか、それぞれ凝ったデザインであったはずが結局全国で似通ってしま
う。この駅の昭和を感じられる風情は個性的といえる。

リニア長野県駅では駅周辺整備に「伊那谷らしさ」を追求するとして
いる。どのようにして金太郎飴的でない「らしさ」を出していくか。また
リニア駅前には賑わい施設として物販、サービスを提供するゾーンが
考えられていると聞かすが、駅を出て自然と誘導されていく当駅の造りは
参考になるのではと感じた。



「仲見世」の様子

ただ、私には好ましいと思えた駅前であるが、地元熱海市民や来訪者には不評のようである。熱海市によると、
①バス、タクシーが広場を占有し、一般者が駐車・停車する場所がない、②広場を道路が分断し、広場の一体感
がなく安全に通行できない、という（熱海市HP）。熱海市では平成23年度から熱海駅前広場整備工事を進めてお

り、このレトロ感ある駅舎も間もなく取り替えられる。平成29年3月末完成を目指し進められているが、その際にはすっきりした景観となったものの金太郎飴に、とまらないよう願うものである。

2. 観光・温泉に特化した熱海市

まず、鉄道駅（新幹線駅）としての熱海駅は、1日当りの乗車人数は9,583人（平成26年度）である。JR東日本から同一基準で発表されている平成22年度からの推移は、東日本大震災年の平成23年度の落ち込みを除き、連続して前年を上回っている。近隣駅では、小田原駅が同44,642人、三島駅（静岡県）が同29,669人（同年）という状況である。

熱海駅は観光による利用が多いであろうという前提から熱海市の観光の現状をみると、観光入込み客数は年間6,407千人。うち宿泊施設利用人員は同3,156千人、観光施設・イベント客数は同3,251千人（いずれも平成26年度、熱海市観光経済課発表）である。平成22年度からの推移は、これも平成23年度を除き連続して前年増となっている。

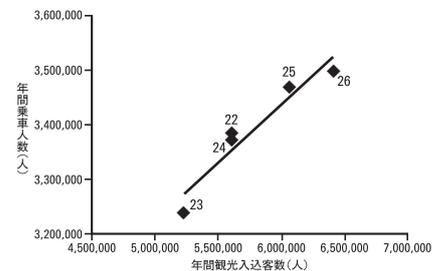
入湯税申告ベースの宿泊人員は、平成26年度で2,967千人と平成22年から連続して（平成23年度を除き）前年増であるが、内訳をみると旅館・ホテルは増加傾向であるのに、寮・保養所は減少傾向にあることが判る。その裏付けとして、平成22年度からの宿泊施設数の推移は、旅館が最近3年度間は減少傾向が止まってきているのに対し、寮・保養所は減少傾向が続いており、全体の経済状況や企業の対応状況を窺うことができる。

熱海市の事業所統計でみると、観光関連業種は温泉旅館やホテル、それに付随するとみられるサービスを含めると事業所数、従業者数とも4割近くを占めている。

経済センサス平成21年と24年調査のなかでは、事業所数、従業者数とも縮小している中で観光関連も減少しているとはいえ、全体の中では構成比を高めているともみられる。

新幹線乗車人数からみる熱海市は、①地形等の関係から企業の立地＝ビジネス客の利用は難しく、②隣の三島市のようなベッドタウン＝新幹線通勤も図り難く、観光による交流人口に依存せざるを得ないものといえる。

観光入込客数と熱海駅乗車人数
（数字は調査年）



宿泊施設数の推移 (単位：千人)

	宿泊施設利用人員	観光施設イベント客数	総数
平成22年	2,729	2,886	5,561
23年	2,562	2,670	5,231
24年	2,829	2,779	5,608
25年	3,037	3,026	6,062
26年	3,156	3,251	6,407

熱海市観光経済課

宿泊人員の推移 (単位：千人)

	旅館・ホテル	寮・保養所	総数
平成22年	2,110	513	2,623
23年	2,021	446	2,467
24年	2,253	437	2,689
25年	2,440	431	2,872
26年	2,541	426	2,967

熱海市観光経済課

宿泊施設数の推移

	旅館	寮・保養所	総数
平成22年	129	193	322
23年	118	195	313
24年	121	179	300
25年	121	182	303
26年	121	180	301

熱海市観光経済課

熱海市 産業別事業者数・従業者数（抜粋）

	平成 21 年度				平成 24 年度					
	事業者数		従業者数		事業者数		従業者数			
	実数	構成比	実数(人)	構成比	実数	構成比	増加率	実数	構成比	増加率
総数	3,238	100.0	23,430	100.0	2,857	100.0	-11.8	19,139	100.0	-18.3
農林漁業	6	0.2	46	0.2	5	0.2	-16.7	60	0.3	30.4
建設業	323	10.0	1,670	7.1	298	10.4	-7.7	1,361	7.1	-18.5
製造業	85	2.6	557	2.4	92	3.2	8.2	561	2.9	0.7
御小売	723	22.3	4,005	17.1	654	22.9	-9.5	3,303	17.3	-17.5
宿泊・飲食業	807	24.9	6,894	29.4	709	24.8	-12.1	5,593	31.0	-13.9
関連サービス	489	15.1	3,014	12.9	451	15.8	-7.8	2,994	15.6	-0.7

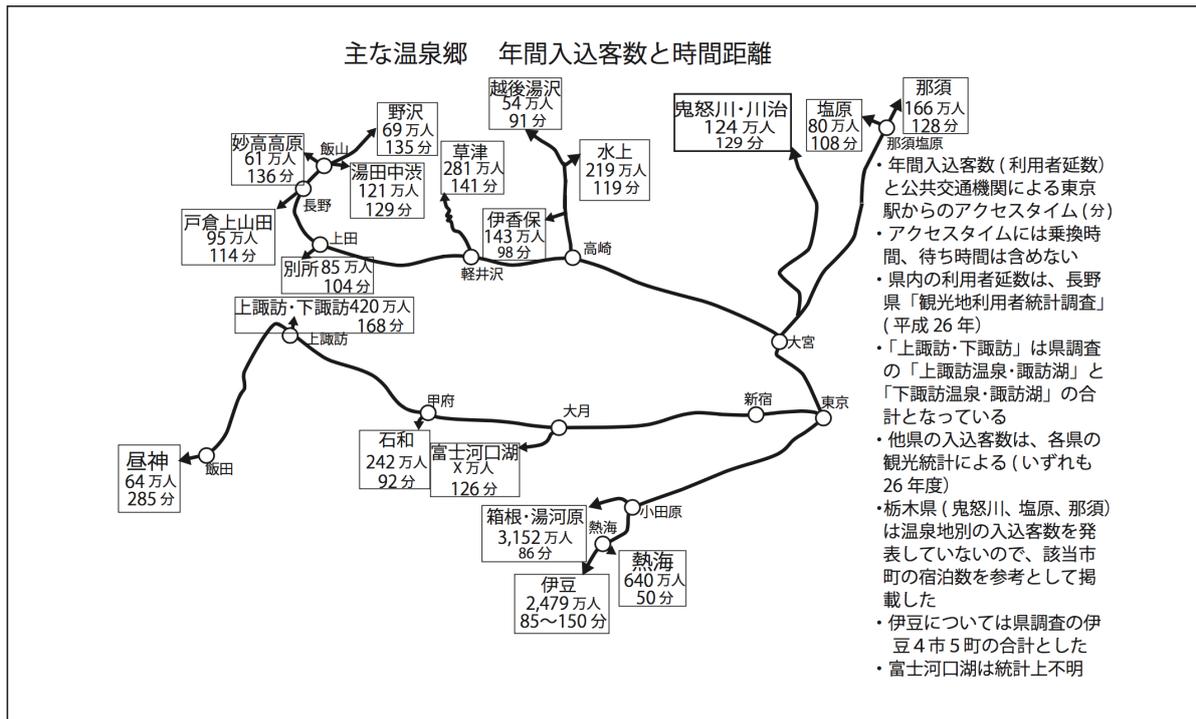
経済センサス



3. 飯伊地域の観光は

リニア新幹線が開通し当地域内にリニア駅ができることで「当地の観光・温泉に関東圏・首都圏からの入込増が見込まれる」との期待があるというが、どうであろうか。

全国各地域の観光・温泉の活性化に関わっている信金中央金庫地域・中小企業研究所の笠原 博専任役は「そう簡単ではない」と言う。温泉を例にとると、首都圏からみて強力な競合先が各地にある。「昼神温泉をはじめ飯伊地域の温泉の知名度は低い」とのことである。また温泉(温泉郷)は泉質のみでなく旅館や周辺の環境等との「掛け算」により集客力が決まってくるものであり、また温泉郷の先にどのような観光スポットや施設があるかなどトータルとして選択の対象になるもの、という。



4. 今後への期待

当地域の温泉が関東をはじめ各地の温泉郷と互していくのはたいへんであるが、上図の通り都心から当地域への相当ある時間距離は、リニア開通により劇的に短縮され90分程度になる。これは競争力アップになるが、それに加え、当地域のアピールポイントをつくる、駅とのアクセスをどうするかなど取り組む必要がある。

最近の話題として、「スタービレッジ阿智」によるナイトツアーが全国で脚光を浴びている。また来年のNHK大河ドラマでは井伊直虎を扱うが、静岡県遠州地域はすでにプロモーション活動を官民挙げてスタートしている。直虎は高森町にも縁があることから、今後は三遠南信地域で取り組んでいく動きもある。期待が持てる事態となっている。

ポイント

1. リニア駅の賑わい施設に地域の知恵を。
2. 地域の魅力スポットづくり。
3. 観光は重要ではあるが、産業面、この地域の生活の質など多面的な要素でリニア駅利用につなげていく。

(飯田信用金庫 総合企画部 リニア対策室 加藤 修平)